

「人生のやる気デザイン」研究部会（第32回）

日時：2023年2月27日（月）13:00～16:00

場所：オンライン

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
山口和人所長・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：吉久知延相談役

内容：（1）榎本研究員：大テーマは「成人先天性心疾患患者の病みの軌跡」

今回は「アイデンティティを形成するもの：アイデンティティとナラティブ」として、以下の内容の報告と論文紹介

◆アイデンティティ研究

- ・ Marcia のアイデンティティ・ステイタス
- ・ アイデンティティプロセスモデル：アイデンティティ形成のプロセス
- ・ ダイナミックシステム・アプローチ

◆ナラティブ・アイデンティティ

- ・ 論文紹介

McAdams, D & Mc Lean, K. C. (2013). Narrative Identity. *Current Directions in Psychological Science*, 22 (3), 233- 238. <https://doi.org/10.1177/0963721413475622>

◆まとめ

- ・ 自己の統合の難しさ
- ・ アイデンティティ研究の中でのナラティブは主に「個人が人生の転機をどのように乗り越えるのか」ということに焦点をあてている＝つまり「探求→コミットメント形成」の具体的な中身を扱っている

（2）中井研究員：「人生のやる気をデザインする」のテーマのもと、「自己拡張理論に関する研究計画について発表

1. 研究計画の作成
2. 研究計画の概要
3. 研究①「動機づけの原則」の日本版尺度の作成
4. 研究②「動機づけの原則」の関連要因の検討
5. 研究③「他者包摂の原則」の日本版尺度の作成
6. 研究⑤「動機づけの原則」研究の他の方向性
7. 研究⑥「他者包摂の原則」研究の他の方向性

（3）渡辺研究員：「家庭・学校・地域における『生きる力』に向けた社会情動的スキルの育成：ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の切り

口」の報告をもとに、下記について言及

◆幼児の社会情動スキル育成の必要性の背景

近年、学級崩壊やいじめといった対人関係のトラブルが増えていることの原因の一つとして、感情リテラシーがうまく育まれていない問題が指摘されている。そうした背景から、幼児期において社会情動スキルなどの育成に力を入れるSELが必要であることが国内外で強調されている

◆幼児期における感情リテラシーの育成のための実験を紹介

幼稚園児に対して、同じ年代の幼児に声と表情で六つの感情（喜び・怒り・嫌悪・驚き・悲しみ・恐怖）を表現してもらおう。幼稚園児はどのように受け止めたかを調査

- ・次回研究会 3月17日（木）10：00～
- ・次々回研究会 4月24日（月）13：00～